

一歩

川崎小学生殺傷事件、息子殺害事件

5月末に川崎市で、バスを待つ小学生児童たちを2本の刃物を持った50歳代の男性が次々と切りつけ、2人が殺害され、その犯人もその直後に自殺する事件から一週間が経ちました。その事件後、今月になり、40歳代の息子を76歳の父親が殺す事件がありました。

人の命がなくなる悲しさとともに、今後このような事件がなくなってほしいと強く思いました。



川崎市の小学生に刃物での切りつけた50歳代の男性は、「引きこもり」の状態であり、社会での人間関係が築けていないと報道されています。そのような人たちのケアをどのようにしていけばいいかというコメントや考えもメディアには出ています。

40歳代の自分の息子を父親が殺した事件の父親は、自分の息子も川崎で事件を起こし、他人を殺傷した50歳代の加害者に自分の息子の姿を重ねて考えてしまった結果、どうにかしなければという思いから自分の息子を包丁で殺してしまったと報道されています。

私たちが知る情報は、メディアからの情報がすべてと言ってよく、それ以上のことはわかりません。また、すでに過ぎた事件をなかったことにする力も私たちにはありません。ですから、ここでは若いみなさんに関する「今」と「未来」に話に絞ります。

大形中学校の教育目標は、「夢 希望 未来」です。「夢 希望 未来」を育む(はぐくむ)ことを願っての教育目標です。この目標を達成させるために、先生方はみなさんのよさを多面的に理解し、愛情を注ぐことを通して、一人一人の生徒と先生の信頼関係、保護者と先生の信頼関係を構築していきたいという思いが込め、取り組んでいます。全教育活動を通して、すべての生徒に「夢 希望 未来」を育むことを目指しています。

大形中学校の先生方は、「愛」と「信頼」を大切にしています。生徒のみなさんが、学校の活動にがんばれるように、愛情を注ぎ、みなさんとの信頼関係を大切にしているのです。生徒のみなさんにも、伝わっていればうれしいです。

事件との関わりで考えると、人間性(ここでは、考え方や行動、生活と考えるください)の固まった大人になってから、考え方などを変えるには強烈なきっかけや動機、非常に大きなエネルギーが必要です。若いときは考え方が柔軟です。その若いときに正しいことを身につけることが、早く多くのことを吸収でき「学習・経験・身につける」のに適した時期です。ですから、若い中学生のみなさんが「今」正しい考え方や取り組み方を身につけることが大切なのです。



「愛」や「信頼」関係の中、ものごとを身につけるということは、望ましい人間関係の中で成長することを意味しています。「愛」を注がれ、「愛」を感じ取れる関係の中で成長した人や、「信頼」関係を築けた経験は、その後にも影響を及ぼします。「愛」を知っている人や、「信頼」の大切さをわかっている人は、将来悩んだり、困ったときでも安易に他人を傷つけるような行動に走りにくいと考えます。

「愛」や「信頼」は、生徒と先生の関係だけでなく、生徒同士の同学年の人間関係や他学年との人間関係でも、とても大切です。

みなさんが、今仲間と関わり、話し合ったり協力ができることは、将来あなたが悩んだり、行き詰まったときに相談したり、ぼったり出会ったときに気軽に話ができる土壌づくりをしているのです。言い換えれば、今仲間を作っておくことが、将来の相談相手や話し相手になるかもしれないのです。



大形中学校では、

取り組みは「みんなで」やろう

と「全生徒」「みんな」で取り組むことに力を入れています。

学級の力をつけようと取り組んだり、行事にみんなが参加できるように考え、取り組むことも「みんなでやろう」につながります。実際に「みんな」でやり遂げた経験をした生徒は、またその経験を求め、次もがんばる姿が多く見られます。完歩大会にみんなで取り組み「全員が歩ききろう」や、修学旅行にみんなで取り組み、「一生の思い出にしよう」も、仲間との貴重な経験の積み重ねになります。部活動でも、これから始まる市内大会や吹奏楽部のコンクールも同じです。競技や種目、ポジションなどが違っていても、がんばっている者同士、仲間のがんばりや気持ちを理解、共感し、応援できる集団であれば、その人たちは卒業後であっても他人の気持ちを考え、応援できる人になっているはずです。もちろん傷を付ける、殺すなどという考えは、簡単には出てこないはずです。「みんなで取り組む」「みんなががんばる」経験は、他者の理解や応援する気持ちの育成になっていきます。

3年生がこれから臨む入試も同じです。人間関係ができていない学年集団の場合、他人のことなどかまわず、自分の合格のみを考え、行動する生徒が多くなりがちです。自分勝手な行動でルールを守らない生徒がいたり、授業妨害をするような生徒が他人に迷惑をかけるような学年集団の場合、このようになりがちです。正当な生徒ほど、中学校の卒業式を早く来てほしいと願い、自分の望む世界があると思う高校への進学だけを目標に卒業していきます。人間関係がうまく築けず、高校入学だけが目標・・・、寂しい感じがします。

信頼できる人間関係、愛を感じる人間関係の中で、学校生活を送れる学年集団は、苦しいときや困ったときに、お互いが悩みを聞いたり、相談できる関係にあります。困ったときに自分ですべて解決するのではなく、信頼できる仲間や先生と相談し解決しながら、先へ進むことができます。もちろん、学習においてわからない問題を気軽に仲間に相談して解決することも含まれます。

40歳、50歳などという年齢は、若いみなさんにとっては、ものすごい将来のことでしょう。『三つ子の魂百まで(みつごのたましいひやくまで)』という言葉があります。「幼児のころの性質は歳をとっても変わらない」という意味です。オジサン、この年齢になって、仲間と会うと、性格、気質が若いときのままで、『三つ子の魂・・・』だなど実感する 때가あつたりします。

みなさんには、若いときによい人間関係を築き、信頼できる人を多くする財産を築いてほしいと願っています。

